



特集 読書活動の日常化に向けて

わたしと
はこば
「あついでむー!」
穂村 弘

教師力
講座
読書指導、していますか？

書写
生活に生かす
書写授業のヒント

この一冊で図書館が劇的に変わる！



赤木かん子の
読書力アップ！
学校図書館の
作り方 (CDつき)

赤木かん子 著

本の内容

- ① たった一人でもできること
- ② 分類と配置
- ③ 部屋全体を使いやすい図書館に
- ④ お悩み解決!! エリア別の工夫
- ⑤ Q & A コーナー

定価 2520 円 (本体 2400 円)
B5 判・並製・128p ISBN978-4-89528-475-2
好評発売中

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.136 2010(平成22)年9月10日発行 定価126円(税込)
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝村田印刷工業株式会社 デザイン＝mint grafix 撮影＝高宮青志

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。



歌人
穂村弘
はむらひろし

「あついさむい！」

いちばん印象に残っている言葉はなんだろう、と考えて、ひとつ思い出した。数年前の或る日のこと。隣で眠っていた妻が突然、叫んだのだ。

「あついさむい！」

びっくりした。思わず、彼女を起こして尋ねる。

「今、『あついさむい』って叫んだけど、どういうこと？」

「ん」

『あついさむい』って云ったよ

「あたしが？」

「うん、どういふこと」

「わかんない」

「あついの？ さむいの？ どっちなの？」

「ん、むにゃむ」

駄目だ。眠ってしまった。でも、私は「あついさむい！」が気になって仕方ない。長年生きてきて一度もきいたことの無かった言葉。どんな詩や小説のなかでも一度もみたことの無かった言葉。たぶん、これから先も一度も出会うことはないだろう。そう思うと、どうしても知りたい。人間は一体どんなときに「あついさむい！」って叫ぶのか。ちなみにそれは特別にあつくもさむくもない秋の夜の出来事だった。

翌朝、もう一度尋ねてみた。

「昨日、『あついさむい！』って寝言云ってたけど」

「え、そう？」

「あつかったの？ さむかったの？」

「ちょうどよかったんじゃない？」

うーん、ちがうと思うなあ。ちょうどいいとき、人間は「あついさむい！」とは叫ばないよ。でも、仕方ない。本人が覚えてないんだから。それ以上どうしようもない。結局、「あついさむい！」は永遠の謎になってしまった。その言葉は今も私の手の届かないところで輝いている。

そして数日後、妻はまた寝言を云った。

「ねむい！」



1962年北海道生まれ。歌人。上智大学文学部英文学科卒。1990年に歌集『シンジケート』でデビュー。短歌だけでなく、評論、エッセイ、絵本翻訳など幅広く活躍中。若い世代を中心に、絶大な支持を受けている。2008年に「短歌の友人」で第19回伊藤整文学賞、「楽しい一日」で第44回短歌研究賞を受賞。著書に「ラインマーカーズ」「整形前夜」「現実入門」「本当はちがうんだ日記」など。近著に「絶叫委員会」「ぼくの宝物絵本」がある。

CONTENTS

わたしとことば 「あついさむい！」——穂村 弘

特集 02 読書活動の 日常化に向けて

インタビュー「読書コミュニケーション」をしよう——高木まさき
事例紹介——三郷市立彦郷小学校

教師力講座 10 12 読書指導、していますか？——安田恭子
「読書が好き」を育てる——吉永幸司

書写の時間を
考えよう6 16 生活に生かす書写授業のヒント——藤井浩治

古典って楽しい！ 20 第二回 枕草子——青山由紀
作・画／吉永直子

読書活動の日常化に向けて

来年度から実施される学習指導要領では、「読書活動の日常化」が打ち出されています。本特集では、今の子どもたちの実態と読書活動を日常化するために心がけたいことを、高木まさき先生にうかがいます。

さらに、実践事例として、読書活動に力を入れている三郷市立彦郷小学校の取り組みをご紹介します。



「読書コミュニケーション」をしよう

横浜国立大学 教授
高木まさき



日本の子どもたちは読書が好き？

—子どもたちの読書離れが問題視された二〇〇〇年頃に比べると、今、子どもたちの読書量は増えてきているようですね（p. 3 資料1）。

高木 朝読書などの取り組みがさかんになり、子どもたちの読書量は回復してきています。

読書離れが深刻だった頃のPISA二〇〇〇調査（※1）では、日本の子どもたちの、読書生活における興味深い結果が出ています。

「毎日、趣味として読書をどのくらいし

ますか」という質問に対し、「趣味で読書をするのではない」と答えた割合が、OECDの平均値三一・七％に対し、日本の子どもは五五・〇％で、第一位。また、「どうしても読まなければならないときしか、本は読まない」と答えた割合もいちばん高い。日本の子どもが、他国の子どもたちに比べて、本を読んでいることが浮き彫りにな

りました。

しかし、一方で、「読書は時間の無駄だ」「とてもよくあてはまる」と答えた割合は、OECD平均値が八・三％に対し、日本の子どもは六・六％と、韓国の二・八％に次いで少ない。また、「本の内容について人と話すのが好きだ」「本をプレゼントされると嬉しい」「本屋や図書館に行くのは楽しい」などの質問に「とてもよくあてはまる」と答える割合が、他国に比べ高いのです（※2）。

この調査結果から、日本の子どもたちは、本は読んでいないけれど、読書の価値

は認めていて関心が高いということがわかります。きっと「本を読まなければいけない」という意識はあると思うんですね。ですから、きっかけさえ与えれば読むようになる。二〇〇〇年頃、子どもたちの読書量は過去最低水準でしたが、急速に回復してきています。これは、朝読書などが始まり、もともと読書に関心のあった子どもたちが、きっかけを得て、読書へ向かい始めたと思われることができます。このように、きっかけを与えれば読むようになるので、読書指導は、可能性を秘めたやりがいのある分野だと思っています。



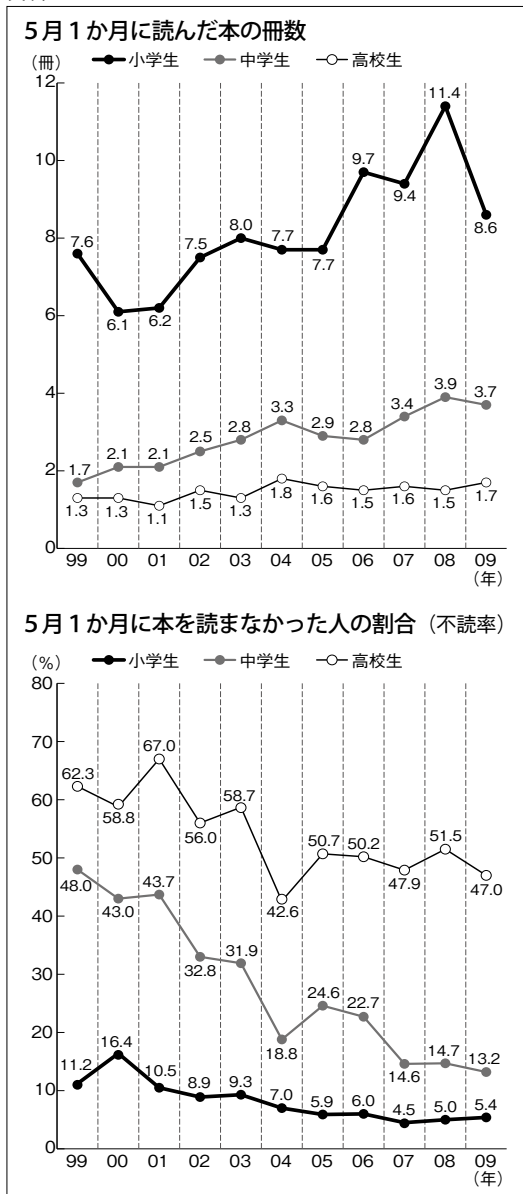
今の子どもは「名作」を読まない？

—最近の子どもたちが読んでいる本を見てみると、『犬と私の一〇の約束』『学校の怪談』などのテレビアニメ化または映画化されたものや、『かいけつゾロリ』『黒魔女さんが通る!!』などのアニメ調のイラストが挿絵に使われているシリーズものが目立ちます（p. 4 資料2）。

高木 そういう実態を見て、「子どもたち

読書活動の日常化に向けて

資料 1



＜出典＞「2010年版 読書世論調査」（毎日新聞社）
調査概要：小学生は全国の4～6年生を対象に、2009年6月第1週または第2週に実施。サンプル数は3,352人。

※1 PISA 調査
OECD（経済協力開発機構）が2000年から3年ごとに行っている、義務教育修了段階の15歳の生徒を対象にした学習到達度調査。

※2
本文中で示したPISA調査のデータは、『生きるための知識と技能 OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2000年調査国際結果報告書』（国立教育政策研究所編）による。PISA2003年、2006年調査には、この種の質問項目はない。



大人が本を読んでいることが、 子どもにとって何よりの読書環境です。

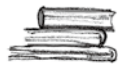


たかぎ
高木まさき

1958 年静岡県生まれ。横浜国立大学教授。中央教育審議会国語専門部会委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。著書に「他者」を発見する国語の授業（大修館書店）、『情報リテラシー 言葉に立ち止まる国語の授業』（明治図書出版）などがある。光村図書小学校・中学校国語教科書編集委員を務める。

― 来年度から実施される学習指導要領では、読書活動を習慣づけることや、読書活動を家庭や地域につなぐことが重視されています。読書活動を日常化するために、心がけることは何でしょうか。

高木 僕は、何よりも「大人が本を読む」ということが大事だと思っています。教師や親が本を読んでいるということが、子どもにとってすばらしい読書環境になります



本を通して コミュニケーションを

さまざまである、ということを理解したうえで、子どもたちの発達段階や興味にに応じて本を紹介してもらいたいのです。

それから、映像化された作品やライトノベルなどは、子どもにとって、とても身近なものです。それらの作品にも目を向け、うまく生かして子どもたちの読書を広げていっていただきたいなと思います。

から。

まわりの大人たちが本を読んでいると、子どもは影響を受けて、背伸びして少し難しい本に挑戦しようとするんですね。そういう「背伸び読書」をすると、読めない漢字、知らない言葉にたくさんふれることができる。それが語彙力を高めることにもつながるでしょう。

三郷市立彦郷小学校（p.67）では、地域のボランティアの方の協力を得たり、「家族読書の日」を設定したりしています。学校だけでなく、地域・家庭に読書活動を広げる、というののもとても大切なことです。

繰り返しになりますが、「読書活動の日常化」のベースになるのは、「教師（または親）が子どもと本の話ができること」です。ぜひ読書をして、子どもたちに本のお話をたくさんしてあげてほしいですね。

それから、子ども同士の読書交流も大事です。友達から得た本の情報は、ストリートに子どもたちの心に響きますから。授業の

は本を読んでいるかもしれないが、読書の質は向上していない」と言う人がいます。しかし、私はそう簡単に決めつけるべきではないと思っています。

例えば、一九五〇～七〇年代、子どもたちによく読まれていた本を挙げると、『豊臣秀吉』『次郎物語』『ロミオとジュリエット』『野菊の墓』など、同時期に映画化やテレビドラマ化された作品がとても多い。映像化されることによって、作品を身近に感じ、本を手にしたのだと思います。他のメディアに影響されて、本を読み始める子

どもは、昔から多かったんですね。

また、今、ライトノベル（※3）がとても人気ですが、例えば『文学少女（※4）』から太宰治に興味をもったり、太宰の作品を読んだりすることもあるでしょう。ライトノベルをきっかけに読書が広がることもあるはず。

個人的な話になりますが、僕は子どもの頃、読書が苦手でした。「名作だから読みなさい」と言われて読んだ本がつまらなくて、読書から遠ざかってしまったんです。もともと自分の身近なものから読み始めれば

よかったなと今になって思います。

たしかに「名作」と呼ばれる作品を読むことは大事かもしれませんが。しかし、例えば「名作」である夏目漱石の『坊っちゃん』（一九〇六年発表）は百年以上前の作品で、百年も経てば、ものの見方・感じ方などが、今とはずいぶんズレます。今日の学園ものに慣れた子どもたちは、同じ学園ものでも『坊っちゃん』のストーリーには共感しづらいかもしれません。

先生方には、その「ズレ」を理解し、さらに読者によって「名作」と感じる作品は

資料2：1か月に読んだ本 ベスト5 (2009年5月1か月に読んだ本)

▼男子

順位	実数
小学4年生	1 三国志 21
	2 学校の怪談 17
	3 かいけつゾロリ やせるぜ！ダイエット大さくせん 15
	4 かいけつゾロリ ちきゅうさいごの日 13
	5 かいけつゾロリ イシシ・ノシシ大ピンチ!! 12
小学5年生	5 かいけつゾロリ たべられる!! 12
	1 日本の歴史 34
	2 三国志 18
	3 かいけつゾロリのてんごくとしごく 15
	4 西遊記 14
小学6年生	5 かいけつゾロリ たべるぜ！太ぐいせんしゅけん 11
	5 学校の怪談 11
	1 日本の歴史 81
	2 三国志 29
	3 江戸川乱歩シリーズ 18
小学6年生	4 怪盗ルパンシリーズ 15
	5 世界の歴史 14

▼女子

順位	実数
小学4年生	1 犬と私の10の約束 10
	1 ヘレン・ケラー 10
	3 赤毛のアン シリーズ 9
	3 おきやくさまはオバケ！ 9
	3 化け猫レストラン 9
小学5年生	1 赤毛のアン シリーズ 12
	1 黒魔女さんが通る!! Part 3 12
	3 黒魔女さんが通る!! Part 2 11
	3 黒魔女さんが通る!! Part 10 11
	3 若おかみは小学生！ 11
小学6年生	1 学校の怪談 19
	2 恋空 13
	3 日本の歴史 12
	4 犬と私の10の約束 10
	5 黒魔女さんが通る!! Part 6 9
小学6年生	5 ヘレン・ケラー 9

<出典>「2010年版 読書世論調査」（毎日新聞社）

※3 ライトノベル
アニメ・漫画調のイラストが表紙・挿絵として入ることが多い、主にティーン向けのキャラクター小説。

※4 『文学少女』
ライトノベルのシリーズ作品。野村美月著・ファミ通文庫（エンターブレイン）より刊行。実在の文学作品をモチーフとしたミステリー小説。第1巻『“文学少女”と死にたがりの道化』では、太宰治の『人間失格』が題材となっている。



埼玉県三郷市立 彦郷小学校

三郷市は、「読書のまち三郷」をスローガンに掲げ、読書活動推進に力を入れています。今年度、彦郷小学校が「平成二十二年度子ども読書活動優秀実践校」として文部科学大臣から表彰されました。

子どもたちが読書へ向かうよう、さまざまな工夫をしている彦郷小学校の魅力的な取り組みをご紹介します。

埼玉県三郷市は、平成十八年度からの三年間、国立教育政策研究所の委嘱を受け、「生きる力を育む読書活動推進事業」に取り組んできた。彦郷小学校はその推進協力校のうちの一つである。

『読書で育む豊かな心と学ぶ力』を研究主題とし、三郷市教育委員会の指導のもと、子どもたちの読書活動を充実させるために、さまざまな取り組みをしています。そう話すのは、大友みどり校長。彦郷小学校では、次の①～⑤を基軸にし、読書活動を推進している。

①読書環境の充実

彦郷小学校に一歩足を踏み入れると、読書案内のカラフルな掲示物や書棚が目をはひく。地域のボランティアの方々や教員らによって製作され、どれも手のこんだ力作だ。それらを見ながら歩いていくと、知らず知

らずのうちに図書室へたどり着くようになっていく。

その図書室へ続く廊下は「ブックストリート」と呼ばれている。休み時間になると、子どもたちがわっと集まり、真剣に本を選び始める。「ブックストリート」以外にも、各階に読書スペースが設けられ、子どもたちはベンチに腰かけたり畳に座ったり、思い思いの場所でも本を読む。図書室はもちろん、それ以外の場所でも本を手に入れるような読書環境が作られている（詳細はp.10～11参照）。

②読書量の向上

子どもたちが意欲的に本を読めるよう、「読書記録」を推進している。一年生は九〇冊、二年生は二〇〇冊、三年生は二六〇冊、四年生は三五〇〇ページ、五年生は六五〇〇ページ、六年生は九五〇〇

習の時間に作成した大きな「布絵本」を参し、六年生の児童に読み聞かせをする。こうした幼・小・中の「読み聞かせ」を通じた交流も大きな特徴の一つである。

⑤家庭・地域との連携

彦郷小学校の読書推進は地域ボランティアの協力なくしては語ることができない。掲示物の作成、本の整理・修繕などの細かい作業や、読み聞かせ（写真②）など、地域のボランティアが、子どもたちの読書活動を支えている。

また、市立図書館との連携も強く、昨年度は計一八〇〇冊を貸し出してもらい、学

ページ、と目標を設定し、読書記録をつけさせている（写真①）。記録することで、子どもたちは達成感を味わうことができ、意欲的に本を読み進めることができる。

また、学年ごとに「三郷市おすすめの本二〇冊（※）」の一覧を掲示し、読んだ子どもが、自分の名前を書いたシールを貼れるようにしている。友達がどんな本を読んでいるかがわかり、次の本を手にとるきっかけとなっている。

③問題意識をもって読む子の育成

国語科の授業を中心に、学習過程で読書活動を位置づけている。

国語科では昨年度、全学年、説明文教材の授業で読書活動を位置づけた。「どうぶつの赤ちゃん」（二年下）では、本で調べながら、「図鑑『〇〇の赤ちゃん』作り」をした。また、「ごみ問題ってなあに」（五

級）ごとの読書活動などに役立てた。

家庭との連携では、月二回「家族読書の日」を設定している。その日は、親と子がいっしょに本を読み、プリントに感想を書く。また、年に四回「読書俳句」を募集し、親子で考えた俳句を校庭のフェンスに掲げている。「春風がぼくのかわりに 本めくる」など、読書の情景が思い浮かぶ作品が多く寄せられる。今夏は二百人以上から応募があり、盛り上がりを見せている。

* * *

彦郷小学校では、このようなさまざまな取り組みを通し、子どもたちがごく自然に本に親しんでいる。

「大人になっても、ずっと本と仲良くしてほしいと思っています。伝記を読んで偉人と出会ったり、自然を描いた本から環境に興味をもったり、物語を読んで涙したり……そういうことを一生続けていってほしい。そのきっかけづくりを小学校でしていきたいと思っています」と大友校長は力強く語る。

読書活動の 日常化に向けて

④読書による交流

隣接する幼稚園や保育園の園児を招き、図書委員が読み聞かせを行っている。また、中学校の生徒が彦郷小学校へ読み聞かせに訪れることもある。中学生は、総合的な学



写真2…読み聞かせボランティアは計12人。ローテーションで毎週金曜日の朝に読み聞かせを行っている。

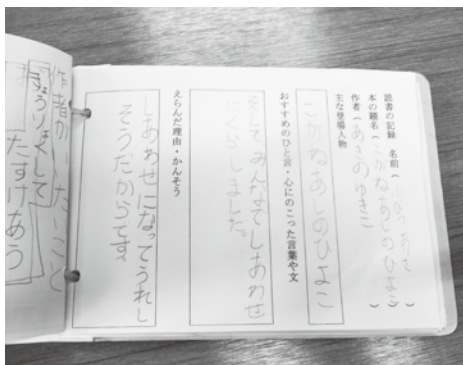


写真1…3年生児童の読書記録。作者名・主な登場人物・心に残った言葉などを書く。

※三郷市おすすめの本二〇冊
三郷市教育委員会が、子どもたちに読んでほしいと選んだ本。低・中・高で各二〇冊。



読書活動を取り入れた授業



本と友だちになろう——「三年とうげ」(三年上)——
三郷市立彦郷小学校 矢持美帆

1 はじめに

本校の児童は、読書が好きなきが多く、意欲的に本を読む姿が見られる。しかし、文章の筋のおもしろさだけにとらわれていることが多く、登場人物の心情や情景描写を味わいながら読み深めるところまではなかなか至っていない。できれば、読後に自分の感想を記録したり、友達と伝えあったりして、読書活動を深めさせたい。

本稿では、教科書三年上 p.66～67に示されている本の帯作りの実践を紹介する。本の帯は日常生活でも見かける、子どもたちにとって身近なものである。帯には、端的にその本の魅力が表されているので、本を読んだ感想を簡潔に表現したり、要旨をまとめたりする学習につなげることができる。

この実践では、韓国の民話「三年とうげ」から、世界の民話・昔話へと、読書を広げることで、各国の文化の違いや、逆に文化が違っても根底にある人々の思いは変わら

ないことなどを感じとらせることに主眼を置いた。

2 指導計画(全十六時間)

第一次 実際の本の帯を見ながら、本の帯の役割について考える。(一時間)

第二次 韓国の民話「三年とうげ」を読み、感想を発表し合ったり、印象に残った言葉などを選び出したりする。(五時間)

第三次 「三年とうげ」の本の帯を作る。作成した「三年とうげ」の帯を、見せ合い、お互いのよいところを見つける。(三時間)

第四次 世界の民話や昔話から好きな本を一冊選んで帯を作り、お互いの帯を鑑賞し合う。その中から興味をもった本を選び、読む。(七時間)

この単元を学習する前に、市立図書館に、世界の民話や昔話の貸し出しを依頼した。市立図書館は、授業資料用として三年生が

3 指導の実際

読める世界の民話や昔話を四十冊ほどピックアップし、準備しておいてくれた。

第四次 第十二時
自分が選んだ本の魅力を伝えられるような帯を作る。



市立図書館から借りた本は、教室に置き、貸し出し期間中は、子どもが自由に手にとって読めるようにした。今回借りた本は、『吉四六さん』『プレーメンの音楽隊』などの世界の民話や昔話が40冊ほど。学校図書館だけでなく、市立図書館の蔵書を利用することで、児童がより多くの作品にふれることができる。

読書活動の 日常化に向けて



選んだ本の帯作りをする児童。

まず、「三年とうげ」で作った帯を見せ合い、お互いのよいところや表現の工夫を再確認させた。

前時に、学校図書館や市立図書館の本の中から、帯を作りたい本を一冊選ばせておいたので、その本の帯作りに入る。児童には、次のような手立てを示した。

- ・帯に引用できそうな言葉やおもしろいと感じたところに付箋を貼る。
- ・スペースが限られているので、いちばんおもしろいと思ったところを書く。

- ・友達に薦めるための帯なので、友達に興味をもってもらえるよう、吹き出しを入れたり、「!」「?」などを使ったりするなどの工夫をする。
- ・本に合った帯になるように、実際に、本に帯を巻きつけて、文字や絵の大きさ・色などを考えて書く。

書くことが見つけれない児童には、教師が質問して、印象の残った言葉やおもしろかったところを引き出すようにした。

子どもは生き生きと帯づくりに取り組み、お互いの帯を見せ合う場面では、「おもしろい本がたくさんあるね」や「早く続きが読みたいな」などと言いながら、お互いの帯のよさを認め合っていた。

4 おわりに

おすすめの一冊を選び、本の帯を作ることは、児童にとって初めての経験だった。しかし、友達に本の魅力を伝えるため、何度も本を読み直し、中心となる言葉を考えたり、要旨をまとめたりするなど、意欲的に取り組むことができた。また、お互いの帯を見せ合い交流したことによって、世界にはさまざまな民話・昔話があることを感



左:『ちいさい ちいさい おばあさん』(イギリスの昔話)物語の一部を引用し、「つづきは本で…」と、本を読みたくするような工夫をしている。

右:『かっぱのがみ』(日本の民話)かっぱの頭の皿に書かれた「あやしい手紙はうけとらないほうがいいかも」という言葉が目にとまり、ひきつけられる。

じとらせることができたと思う。今後は、目的に応じて本を選び、読むことができる児童の育成に努めたい。



読書環境づくり



彦郷小学校では、子どもが本を読みたくなるように、さまざまな工夫をし、読書環境を整えています。その一部をご紹介します。

■図書室へ続く「ブックストリート」。



低いベンチ。子どもたちは、ちょこんと座って、本を読む。

読み聞かせボランティアが、読んだ本の表紙をカラーコピーして掲示。読み聞かせてもらった本を、「自分でも読もうかな」と思わせるのがねらい。

国語科の教材に関連した本のコーナー。各学年の棚があり、写真は6年生の棚。「やまなし」の作者・宮沢賢治の作品が並ぶ。



三郷市の民話コーナー。三郷市の地図に、どの民話がどこで伝わっているのか示され、一目でわかるようになっている。

回転する書棚を図書室の前に。「かいけつゾロリ」シリーズを置くことで、男子児童が集まってくる。



■各階に読書スペースを設置。学年に応じた本を置いていく。



■低学年の階には畳の読書スペース。



大きな絵本のコーナー。休み時間には、子どもたちが肩を寄せ合って、読む姿が見られる。

「モチモチの木」(三年下)でおなじみの斎藤隆介氏のコーナー。作者や各作品の紹介文が、掲示されている。



児童全員が「読書バック」を持っている。図書室で借りた本はこのバックに入れ、机の脇にかける。少しでも時間があれば、そこからサッと本を取り出して読む。



埼玉県三郷市立彦郷小学校
埼玉県東部に位置する三郷市。彦郷小学校のスローガンは「本は心のエネルギー」。2006年より読書活動を推進。09年に創立30周年を迎えた。(児童数557名／大友みどり校長)

読書指導、していますか？

元新宿区立西戸山小学校教諭
やすだきょうこ
安田恭子

楽しい読書指導を

わたしの学校では、図書館利用の割り当てが決まっているから、そのときに、子どもたちを図書室に連れて行って、自由に本を読ませているんだけど、これって読書指導じゃないのかしら？

Q ぼくは、読書の記録を大事にした
いから、「本の貯金通帳」という記録
ノートを作って、読んだ本の書名や
作者名、出版社、一言感想などを書
くようにしているんだ。
でも、この前、子どもたちから、「先
生、どうして感想とか書かなくちゃ
いけないんですか」って聞かれて、
答えられなくて……。



A 読書嫌い、活字離れ等が話題となるずつと前から、多くの先生方が「何とか子どもたちに読書の習慣づけをしたい」とさまざまな工夫をしながら、読書指導に取り組んできました。

ところが、先生方が懸命になればなるほど、子どもたちが読書から遠ざかってしまっていることがあります。これは多くの場合、熱心さのあまり、子どもたちに多くの課題を与えてしまったためです。
読書でいちばん大切なことは、**本を楽しむ**。
今までの読書指導を振り返り、よりよい指導のあり方を考えてみましょう。



図書館指導と間違えていませんか？

読書指導をしていますか、と聞かれると、「わたしは大丈夫。ちゃんと図書室に連れて行って、部屋の使い方の指導もしているから……」と答える先生がいますが、これは違います。読書指導ではなく、図書館指導といふべきです。

読書指導で大切なことは、児童一人ひとりが多様な読書活動を通して、幅広い分野に興味関心をもつこと。知識をもつに思考力・判断力を育てること。さらに、読書の習慣を作り、児童自ら、読書生活を充実させ、情報活用力を育てることです。ですから、読書指導も言語活動の一つとして、低学年から高学年にステップを考えて指導しなくてはなりません。

低学年では

できるだけ多く、読書にふれさせることが大切です。本にふれさせ、本に親しみがもてるようにしましょう。

■読み聞かせ

読み手は先生に限らず、さまざまな人が行うとよいでしょう。

■交代読み

一ページや段落ごとに交代して読む（ペア・グループ・クラス全体）と、飽きずに続けられます。



中学年では

本を読むことで知識を増やしたり、情景や心情を思い描いたりすること、さらに比べ読みや調べ読みもさせましょう。

■比べ読み

・同じ題材でも違う作者の作品を比べます。

・一人の作者のさまざまな作品を比べます。

■調べ読み

調査・報告・伝達等のために読みます。読んで必要な情報を整理します。



高学年では

自ら求めて読書するとき、何のために読書をするのかを考え、自分と読書をしっかりとつなぎながら、自分を深めさせましょう。

■読書マップ作り

読んだ本を記録しながら、自分の読書を見つめます。

わたしの読書マップ			
		科学	読書マップを見て気づいたこと
	物語	物語	・物語の中でもファンタジーが多い。
ドキュメンタリー		物語	・少し科学物にも目を向けよう。

読んだ本の書名・作者名（できれば一言感想も）を書き、枠で囲む。枠はジャンルごとに変える。

■成長期の記録
一か月、一学期等を一区切りに、大きめの紙（B4用紙等）に記録していくとよいでしょう。

本を読むたびに、自分に何を与えてくれたかを書き、自分を見つめる心を積み重ねていきます。

楽しい読書指導を 実践するために

1 きっかけを 上手に与えよう！

子どもの実態に合わせて、本を選びましょう。きれいな色の本、表紙が虫の本、へんな顔の本、一見難しそうな本、等々。さらに、置いておく、開いておく、黙って読む、読んで聞かせるなど、いろいろ工夫しましょう。

2 場の工夫を！

「読みなさい」と放っておいても、読む子にはなりません。教室の片隅にラグマットを置いたり、オープンスペースに読書コーナーを作ったり、立ち読みコーナーをわざと作るのもおもしろいです。

3 時間の確保！

学校生活の中のさまざまなすき間の時間をうまく使いましょう。朝、給食の前後、下校前、等々。先生もいっしょになって、5分読書、10分読書をするのはどうでしょう。

4 活用こそ力！

子どもがどんな本を読んでいるかを、時折把握しておいて、先生のお話や授業中に「〇〇さん、この前、ありの本を読んだでしょう。それに行列ができるわけがなんて書いてありましたか？」などと問いかけてみましょう。読んだ本が役に立つことに、子どもは喜びを感じるでしょう。



読書活動は、できれば日常的に活性化し、充実してほしい言語活動の大きな柱です。
特に学校では、日ごろ、子どもたちに接する先生方がどんな本に関心をもち、どんな本の話をしたり、紹介をしたりするか、さらに子どもたちが読んでいる本をいかに共感的に受け止めているかなど、教師の役割が大事になります。
先生方がアンテナを高くして、多彩なジャンルの本に接し、より多くの情報を子どもたちに提供していただくことが、楽しい授業の一步となるでしょう。

手にしている本を ほめること

「読書が好き」を育てる手軽な方法がある。手にしている本をほめるということである。

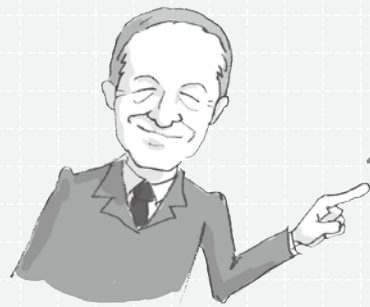
Aさんは意地悪が好き、トラブルにかかわることが多く、読書には関心がない子とされていた。そのAさんが、「読書が大好き」と言うようになった。きっかけは図書館。

「Aさん、新しい本が入ったよ。あなたは力がある子だから、読んでごらん」と、薦められたこと。書名は『論語』。下校の途中、手にしている本の題名を見た近所のおじさんに、「賢い子だね。難しい本を読むのだね」と、声をかけられた。その日、「力がある・賢い」の言葉にいい気分になったAさん。手強い本と思いながらも、『論語』を読み通した。その後も読書に集中するようになった。気がついたら、意地悪やトラブルの噂も聞かなくなっていた。あり余るほどのエネルギーを読書に注ぐようになったからだろう。

読書の始まりは、ちょっとした気

「読書が好き」を育てる

よし なが こう し
京都女子大学教授 吉永幸司



分にさせること。手にしている本をほめることと勝手に理解して試みている。成功率は高い。

読書する子がまぶしい と思えること

「読書が好き」を育てるには、子どもの環境をしっかりと見定めることである。

最近の小学生は多忙である。スポーツ教室やお稽古ごと、塾などの拘束時間で、自分の時間が少ない。テレビやゲーム、携帯電話やパソコンなど、やりたい遊びの種類も多い。また、なかには、物と心、両面においてゆとりがない家庭もある。このような環境では、「本をたくさん読みましょ」と、指示をすれば、子どもが素直に読書をするというよう甘さはない。

そうだとすれば、「このような環境なのに、読書をする時間を見つけている」「読書に心を向けている」ことが立派であるというように見方を変える。すると、読書をする子がまぶしく見えてくる。当然、愛さ

本の内容を 子どもと楽しめると

「読書が好き」を育てるには、本の内容を、子どもと一緒に楽しめることである。

そのためには、子どもが読んでいる本を知ること、読むことである。「図書館で、子どもが手にしている本をそっと見るのが楽しい」と思えたとき、子どもとの心の距離は近くなっている。テレビやゲーム、遊びの話をする。そのエネルギーを、読書から得た感動や感想や感動を伝えたい気持ちに向けさせてい。よき聞き手になるためにも、子どもの本を読むことである。教師になつてよかったという快さを感じるときである。

生活に生かす 書写授業のヒント

広島県大崎上島町立大崎小学校
藤井浩治

書写で学習したことを日常生活で生かすことは、書写にとって最大の目標ですが、また、なかなか定着しないことも事実です。今回は、書写授業の中に日常を意識した活動を入れた実践についてご報告します。国語教育相談室六十八号の続編にもなっていますので、合わせてご覧ください。

単元名

「左右の組み立て方『針・銀』」

六年

1 試書をする

手本を見ないで、筆順だけ確認して、「針・銀」と「針・銀」を使った短文「針は銀色に光っています。」を、自作の「こうひつ用紙」(p.19参照)に試書させます。これが書写の原理・原則を学習する前の子どもたちの文字になります。

2

既習事項(「へん」を書くときの原則)の確認をする

「へん」を書くときの原則を確認します。子どもたちから「へんの右端をそろえる」「へんは右上がりにする」等が出されました。

▲試書(p.19「こうひつ用紙」の一部)

針銀

針は銀色に光っています。

3 左右の組み立て方の原則を考える

漢字には「つくり」が「へん」よりも上がるものと下がるものがあることを告げた後、カードを使ってみんなで「上がるチーム」と「下がるチーム」に分類します。「上がるチームに共通すること」は?と発問すると、「つくりの上部が縦画になっている」ことに気がつき、さらに「つくりの上部が横画の場合は下がる」ことにも気がつきました。また、上部が「点・はらい」の場合は同じ高さになることも押さえておきます。



子どもたちいっしょに、「つくり」が「へん」よりも「上がるもの」と「下がるもの」に分類していく。

この授業での板書

はじめに、「へんの原則」をまとめる。



【㊦】は試書(ためし書き)。

【㊥】は原則に留意して書いた場合。

【㊤】はまとめ書き。

数字は原則が守れたと挙手した子どもの人数。人数を板書することで、子どもたちに「できるようになった」と実感させることができる。

4 「試書」の自己評価をする

試書の「針・銀」を原則に照らして「つくり」の位置の自己評価をします。この日の授業では、「針」は縦画なので少し上げて書いていた児童は三名。「銀」は横画なので少し下げて書いた児童は十八名でした(全二十六名)。

5 原則に留意して「かねへん」の漢字を書く

「つくり」が上がる「鉄・銭・針」と、同じ高さの「鏡・鉦」と、下がる「銀・録・銅」について全員で確認した後、この八字を原則に留意してゆっくり書かせます。このとき、できるだけ消しゴムを使わないことを指示。日常の書字場面では、何度も消して字形を修正することはないので、日常を意識させるための工夫です。書いた後には、この八字について自己評価をします。「鉄・銭・針」についてつくりを上げて書くことができた児童は二十四名。「銀・録・銅」について、つくりを下げて書くことができた児童は二十五名でした。試書に比べて大きく向上しています。

6 「かねへん」の漢字を速書きする

ここで、先ほど書いた「かねへん」の漢字八字を今度は時間を制限して一分間で書くように指示します。「えー！無理だよ」という子どもたちの声。しかし、顔は楽しそうです。

「速く書いても、原則ができていなければだめだよ」と、ストップウォッチを片手に「よーい。はじめ」。十秒ごとにカウントダウンします。「やめ」の合図をした後、「一分間で八文字書くことできた人は手を挙げよう」と言うと、十数名が手を挙げました。続いて、つくりの位置について手を挙げて自己評価をします。多くの児童が原則を意識して書いていました。

日常場面では、ゆっくり字形に気をつけて書く時間はありません。速く書いて



も学習した原則が使えるようにする練習の工夫が必要です。

7 原則を他のへんの漢字に応用する（「ごんべん」）

日常場面で学習した原則を使えるようにしていくためには、さらに原則を他の文字に応用していくことで理解と定着を高めることが大切です。

練習用紙（左）の「ごんべん」の八字を見せ、「つくりの位置が上がるのはどれでしょう」と発問しながら全員で確認します。「計・読・詩・談」は上げて書く。「話」は同じ高さ。「記・語・調」は下げて書く。「なぜですか」と理由も付け加えて答えさせます。

練習用紙の「ごんべん」をなぞらせながら、つくりの位置に気をつけて練習さ

練習用紙

()年 ()月 ()日

計	読	詩	談	話	記	語	調

この授業で使った「こうひつ用紙」

表

こうひつ用紙①

(6)年 ()月 ()日

計	読	詩	談	話	記	語	調
鉄	銭	針	鏡	鉦	銀	録	銅
針	銀	色	に	光	っ	て	い
ま	と	め	書	き	の	欄	

針は銀色に光っています。

裏

こうひつ用紙②

針

針

針は銀色に光っています。

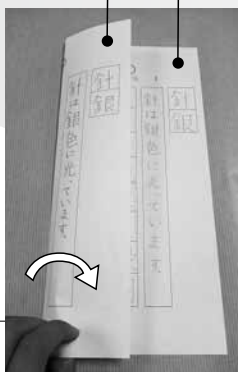
「まとめ書き」の欄

練習欄

「かねへん」と「ごんべん」の8字を「ゆっくり書く」と「1分間で速く書く」練習をする。

「試書」の欄

まとめ書き 試書



せます。練習用紙には、早く書いてしまった児童が自主練習して待ったための「自主練習欄」を準備しておきましょう。

その後は、「かねへん」の練習と同様の流れで、ゆっくり八字書かせた後、一分間で同じ八字を速書させます。今度は、ほとんどの子どもたちが一分間で書き終えて嬉しそうでした。また、ゆっくり書いた八字と速書した八字を比較しても、あまり遜色ない字形で書けている子どもたちも多かったです。

8 まとめ書きをする

「この一時間で学習したことを生かして、最後のまとめ書きをしましょう」と指示して、「こうひつ用紙」の裏に、試書と同じ「針・銀」の二文字と「針は銀色に光っています。」の短文を書かせます。試書とまとめ書きに「語句」だけでなく「短文」を書かせることは、より日常の場面に近づけるための工夫です。日常では、漢字仮名交じりの文章を書くわけですから、漢字の練習だけで終わらないようにしましょう。

9 「試書」と「まとめ書き」を比べる

全員が書き終えたら、「こうひつ用紙」の表に向かって折り返します。すると、「試書」と「まとめ書き」を並べて見ることができるよう用紙を工夫しています。

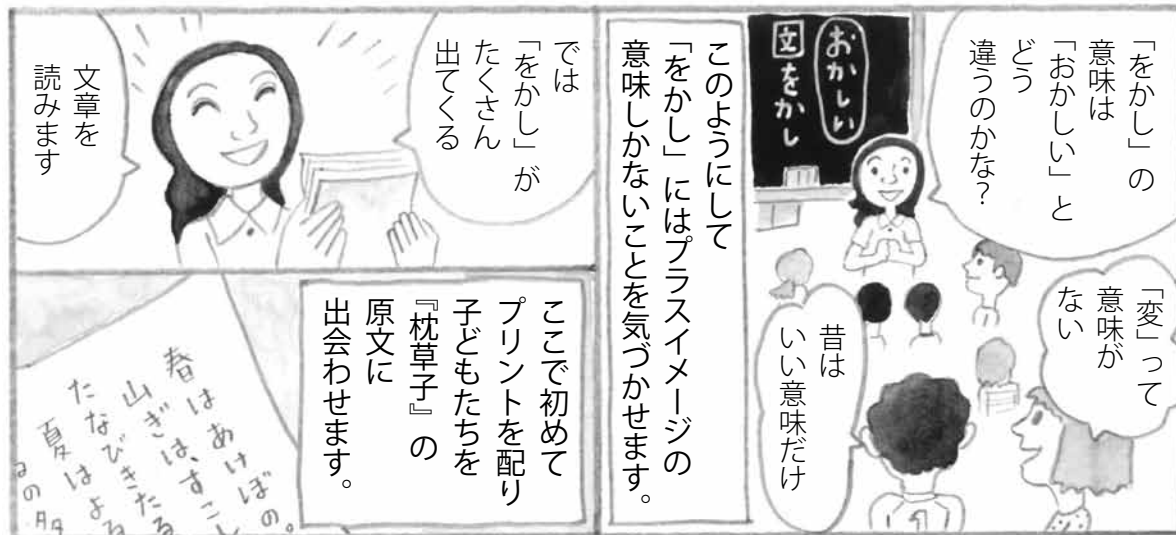
ここで、「左右の組み立て方の原則」を再度自己評価。「針」のつくりを上げて書いた児童、「銀」のつくりを下げて書いた児童は両方とも二十五名でした。

「授業の最初に書いたものと、最後に書いたものを比べてみましょう」と指示。自分の文字の進歩を確認して、にっこりする子どもたちでした。

10 生活に生かす書写授業の工夫（まとめ）

- 1 できるだけ消しゴムを使用させない。
- 2 時間を制限して練習させる。（速書）
- 3 原則を他の文字に応用する。
- 4 語句だけでなく短文を書かせる。
- 5 毛筆・硬筆を関連させた単元構成をする。

以上、つたない実践ですが、書写授業作りの小さなヒントになれば幸いです。



※作品をもとにし、それをなぞったり変えたりしながら自分なりの表現をすること。

▲春夏秋冬すべて翻作すると大変なので、季節を一つにしぼりましょう。

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成 23 年 4 月～ 24 年 3 月（原則 1 年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位も含む）
助成件数及び金額	助成件数は 80 件まで。助成金額は 1 件につき 20 万～ 50 万円
応募方法・締め切り	・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成 22 年 12 月 22 日（水）必着で、当財団事務局に郵送。 ・申請用紙を希望される方は、直接又は返信用封筒を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果を平成 23 年 2 月末までに通知。平成 23 年 3 月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	財団法人「言語教育振興財団」事務局 〒 141-0021 東京都品川区上大崎 2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174

● 古典って楽しい!



※ 光村の提示型デジタル教材シリーズ ※ 小学校版

わくわく 英語タイム

新学習指導要領対応

初めての英語活動を強力にサポート!

デジタルテレビ・電子黒板に最適!

英語活動の導入に最適

高学年の知的好奇心を刺激

ネイティブの音声を豊富に収録

指導用字幕ガイド付き

クリックだけのカンタン操作

英語ノートとの併用が効果的

What color do we get?

What color do we get?

文部科学省「英語ノート」対応

わくわく 英語タイム<1> (「英語ノート 1」対応版)

わくわく 英語タイム<2> (「英語ノート 2」対応版)

監修 昭和女子大学附属昭和小学校 校長 小泉清裕

価格 (学校フリーライセンス)

各 26,250 円 (本体価格 各 25,000 円) ⑨

For Windows®

好評発売中! 光村の提示型デジタル教材シリーズ

■ 光村「国語デジタル教科書」小学校版 1～6年生用 各 52,500 円(税込)

■ 光村「国語デジタル教科書」中学校版 「話す・聞く」編 古典編 各 52,500 円(税込)

■ わくわく漢字伝(小学校版) 低・中・高学年用 各 26,250 円(税込)

■ わくわく古典教室(小学校版) 低・中・高学年用 各 26,250 円(税込)

光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
TEL: 03-3493-5741 (お客様窓口) FAX: 03-3493-5483
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

体験版配布中!

詳しくはこちらまで↓
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/>

好評発売中!

教科書編集部便り

来年度から新学習指導要領が実施されます。それに伴い、あるいは、それ以外にも、行政的にさまざまな動きがあります。

▶移行措置

国語科では、これまで第4学年で指導するとされていた「ローマ字」が、第3学年に変更となります。そのため、今年度の第3学年児童に対する移行措置として、教科書にはない「ローマ字」の指導が必要です。弊社では、4月に各学校へ資料をお届けし、かつホームページからもダウンロードしていただけるようにしています。

▶常用漢字表の改定

今年度中には、常用漢字表の改定が行われる予定です。これまでの常用漢字に196字が加わり、5字が削除されて、計2136字となります(文化審議会答申)。ただし、「常用漢字」とは、「法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使

用の目安」として定められるもので、学校教育でどのような扱いをするかは、また別の決まりが必要になります。変更漢字を、どの学校段階で、いつから、どのように扱うのがよいか、現在、文部科学省で審議中です。それまでは、現行の常用漢字(小学校では学習指導要領に示された学年配当漢字)を指導します。

▶評価

学習評価についても改正が行われます。

国語に関しては、

- ・国語への関心・意欲・態度
- ・話す・聞く能力
- ・書く能力
- ・読む能力
- ・言語についての知識・理解・技能

の5観点が設定され、従来と変わりません。国立教育政策研究所のホームページなどで、詳しい資料を見ることができます。弊社「年間指導計画資料」も、ぜひご覧ください。

広報部便り

前号からスタートした連載「古典って楽しい!」の取材のため、7月のある猛暑日、イラストレーターといっしょに筑波大学附属小学校へ行きました。教室は蒸し暑く、まるで温室のよう。大人二人、汗をぬぐいながら、枕草子の授業を参観することとなりました。

しかし、子どもたちは元気いっぱい。意欲的に枕草子の翻作に取り組みます。

「夏はかき氷。山のようにキラキラ光るのはいとをかし。」

「夏はお祭り。金魚つりをするのはをかし。冷たいラムネを飲むのもをかし。」

「夏はかき氷。氷をけずる音はいとをかし。食べる前のドキドキ感をかし。」

……など、素晴らしい作品を次々と発表してくれました。子どもたちのみずみずしい感性に驚くのと同時に、ふっと涼しさを感じる事ができたひとときでした。

次号も、子どもたちが生き生きと取り組む古典の授業をご紹介します。どうぞお楽しみに。